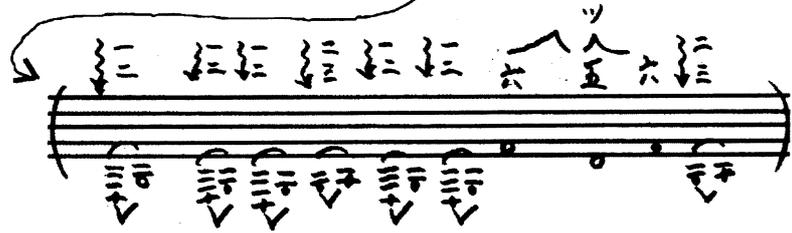


f きりがくれさんワ? **g** きよオにちよオび だれもこない

箏：割



g ボクワさんがいに寝ている もオいちねんが過ぎた すこしずつ良くなってくみたい

箏：地



f d g だれか来てくれないか **f g f d** およめさん ねずみいろのおよめさん **f g f d d** はぶらしや歯みがき粉

g f g f d g もうまゆみさんワはんとしこない **f g f d** まゆみさんのくれたはぶらしワ

g こオ、手で、固ていして **素 (セリフ)** (だんだん手が 不自ゆうになっくみたい) **g** 歯ヲうごかす
, (一時停止) 地

g きのうワ二かい、歯がちいさくくずれた



g
ボクワあるくんだ 寝たままで

g
まどいっぱい

楽九



d → **f**
しろいふねがむかえに来てくれたら!

f dg f d f dg f dg
ともだちのともだちも ともだちのともだちの

f dg ともだちも みんなで振るんだ **d g c d g c** キンゾクバッ キンゾクバッ

g いちるいせエふ **g** 二るいエバッ とおるいおオのボク、去ねん

g ことしつめたい

地



f g f d g f d ベッドのうえ せんせいワくるけど まゆみさんワこない だれかこないか **素** どれ

箏：割 **g** だろのかみさまが眼ヲさます、だろのなかから 眼ヲひらく



素

だろのかみさまとワ 「だろほオ」のことです **g** ボクのだましいヲぬすみにくる



素

だれ **g** あのしよオねんのたましいワ あおくなってきたから あかくしてやろオ



まくらにぶっ



g

ボクワゆめヲ見る、ねむりのなかで **d** → **f** **g** まどわくこわして



g

素

かみさまのおれぜんと ええと、あぶらし いや、かぶらし いいえ、さぶらし のん、



たぶらし ちがう、なぶらし そオそオ、はブラシ それから、まぶらし

g
やぶらし わぶらしも これでぜんしんヲまっさあじ げん気になつたら

d → **f** **d** → **f** **g**
しるくろオどヲ行くんだ、しろいふねで いのうえやすしもいっしょだぞ

楽九

2 3 3 2 2 3 3 2 2 3 3

g **素** **f** **g** **f**
あしたかやまヲひとつとび さすけがくやしがつている、地じよオで さいぞオが

g **素**
泣いている、地じよオで いのうえさん このふねワどこエゆくのですか

g
さあ、さりません しりません すりません せりません そりません

d → **f** **d** → **f** **g** **f** **dgf** **d** **f** **dgf** **dg**
捕げいせんも貨きゃくせんも みんなともだちのともだち ともだちのともだちの

f **d** **g** **d** → **f** **素**
ともだち とんこオ、ろオらんヲゆき さまるかんどヲゆき あっヒツ おオきいぞ、

ヒツ $d \xrightarrow{\quad} f$ g c g
 こんろんさんみゃく越えのほオむらん 飛ぶ 飛ぶことの意味

g $d g f g$
 泣くなよ おかあさん らぶらしとりぶらしとるぶらしとれぶらしとろぶらし

掛十

$2\ 2\ 3\ 3$ $2\ 3$ $2\ 3$ $3\ 3$ $3\ 2$ 2
 六七五六 七六 七六 五六 六七七

g
 取りまとめて、ぜんぶ上げるから ぶらしして きれいになってね ポクワ

g
 ふうとオに火ヲいれて せんせいにおくるよ ゆうびんきよくから はがきにワ

地

$3\ 3\ 3$ \uparrow 3 \uparrow 3
 五 六 七 六 七 七 六 七 六

g f d g
 たましいのいてんつうちさ ポチワここまでついてきたけど もオおかえりよ

g $素$
 ひたいにきってヲ貼って ぼすとにねじこむから 「どぞくのゆうびんきよく」はつ

g
 ゆうひヲとらえる 眼のズームワ とオいうんかいエはいたつされる 歯のひとつ



g
 小づつみのなかから まつの実に歯がたヲのこして

連



g ボクワ飢える いしヲ積む **g** かわらのいしヲ うまのかたち



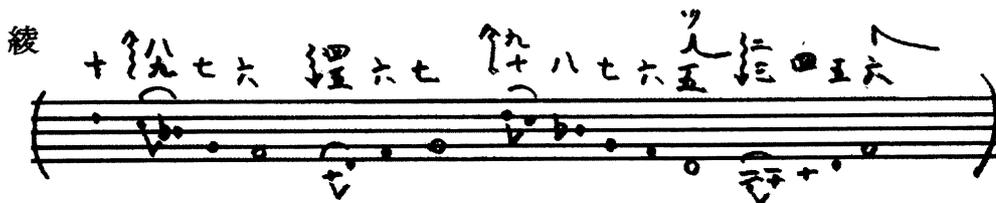
g
 自どオ車のかたち しんかんせんのかたち きりのなかからだい魔じん モスラのおんがく



g にわとりのうた **素** あつけっこんしき
 , (一時停止)



g さっそオと **f g f d** まゆみちゃんだ



d → **f** **g** **f**
 しろいどれすは どれにするの? などと言っているのがきこえるよ



g
 たい鼓のおとワだいきらい ふえのねワきらい かねのこえワすこしきらい

地

3 3 3 ↑ 3 ↑ 3

五 〇 六 〇 七 〇 六 七 七 六 〇 七 六 〇



f g f d
 まゆみがすき

g **f**
 掛十 ボクワしんろオだ ひろいんヲだく

2 2 3 3 2 3 2 3 3 3 3 2 2

六 七 五 六 十 七 六 七 六 七 六 十 五 六 六 七 十 七



g **f** **g** **f** **g** **f** **g**
 ひろオえんの ひろいえんかいじよオ きよオのひろいんワ ふろあアで ほろほろと



g
 なみだしている ふうとオもはがきもぬれている



2 3 3 3 2 3 2 3 2 2 3 3

↓ 六 四 五 六 九 ↓ 六 四 九 ↓ 五 九 五 六 四 五

g しんろオワ **f dg** さんまんえんもってるぞ ポチの貯きんばこのなか

g **f dg** でもポチのあたまヲわからないと **g** そのさんまんえんヲ取りだすことができないよ

素 **d g c** ぶちわろオか キンゾクバツで **d g c** キンゾクバツで **g** いちげきのもと

f dg **f g fd**
ポチよボクヲ行きたい、しんこん旅こオに まゆみと

掛十



d **f** **g** **素**
しるくろオどヲ どこまでも ねエ、そのためにワ さんまんえんぐらいなくちゃあ

g
わらわれてしまうよ ぶられてしまうかなあ

『寝物語』は、膝を立てて床に仰向けになった歌手と箏奏者のために書かれた。歌手は、登場人物に結びついたメロディの変化以外は、ほとんど1音上で語る。箏はいくつかの型にもとづいて、自由に演奏する。照明は床に置かれたランプだけ。これは、フィリピンのパラワン島の叙事詩クダマンや、日本古代のコトによる託宣にヒントを得た。

"Bed Sory" is written for a singer lying on her/his back with drawn-up knees on the floor, and a koto player. Singer chants almost on a single pitch except a few melodic variations related to the characters. Koto plays freely based on a few formulae. The stage is lighted only with a lamp on the floor. This is inspired by the Palawan epic chanting "Kudaman" as well as ancient Japanese divination with koto playing.